

千葉中央での思い出

鵜澤 亜美

私が千葉中央での思い出で思い当たることはたくさんあります。
なぜなら、色々な事があったからです。

千葉中央に入部したのは一年生の夏休みでした。その時は、みんななかみが短くてとてもビックリしました。当時は、バレーボールの事を全然知らずにやっていました。低学年のころはただただ楽しいばかりでした。B大会では、ほぼ優勝とかん鬨賞で、「このまま六年になったら全国レベルまで行けるかも！」とおもっていました。たけど、部員の退部、指導者が減り、私達はどん底状態に落ち入っていました。

そして五年生になり、監督練習が始まり、三人という少ない人数で毎日のように練習をして、しんどいなあ……。と思いながら五年の二月に、新部員『愛花』が入ってきました。四人になって色々変わると思うがそれは無かった。

時は過ぎ、十二月、スポ少全国支部予選。私達にとっては最後となる大会となりました。いつもなら、キセキが起き、県大会に進めるのだが、そうでは無かった。私達は下総ドルフィンズに激戦の

末、敗北。負けっぱなしの一年でした。私はすぐに気持ちを切り変えた。今のチームのことを考えたから。私達と一緒にコートに立ったのだから、いい思い出を残してほしいと思う。

今思えば本当に色々あったと思う。数々の試合で勝った事、負けた事、ボールが無くなった事、遠征で友達をたくさんつくった事・・・。

どれもこれも忘れることができません。私達六年生は卒部するけど、みんなの事は忘れない。だからみんなも私達の事を忘れないでいてほしい。中学校に行ったら、勉強も運動も両立できるようになっていこうと思う。今までありがとうございました。